

おわりに

正確な実態把握による評価・検証

「学ぶ土台づくり」の取組の成果は、子供の生活や学びの様子など、まさに「子供の姿」に映し出されるものです。そのため、家庭における子供の姿や教育現場における幼児教育の取組状況などの実態を正確に把握し、課題を的確に分析することが「学ぶ土台づくり」の取組の改善・充実には不可欠です。そして、現状や課題は、行政だけではなく、家庭・地域社会・教育現場を含めて、幼児教育に関係する全ての主体で共有することが必要です。

宮城県は、正確な実態把握により現状・課題を分析・整理して各主体と共有し、各主体は、現状・課題に応じてそれぞれの取組を改善していくという、PDCAサイクルによる評価・検証を行います。

さらに、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の定期的な改訂（改定）をはじめ、幼児教育の動向や社会の状況は変化し続けます。このような社会状況の変化や宮城県の幼児教育の現状・課題に応じて、この指針が常に適切なものとなるよう不断の見直しを行います。

みんなの行動が子供の健やかな成長につながります

「学ぶ土台づくり」は、幼児教育に関係する全ての主体（家庭・地域社会・教育現場・行政）が、現状・課題についての共通認識をもち、この指針に対する共通理解の下、子供の健やかな成長のためにそれぞれの役割を確実に果たすことで成果が上がるものです。

はじめにも書いていますが、宮城県の将来を担う全ての子供たちをみんなではぐくんでいくためには、大人たちが一人一人の子供のために行動していくことが必要です。どの主体の役割も欠くことはできません。

この指針により「元気いっぱい、夢いっぱい、瞳かがやく“みやぎっ子”」を目指し、みんなで幼児教育に関わる意識をもち、各主体間で連携・協力しながら取り組んでいきましょう。



各主体に期待される役割



家 庭

教育の基盤は家庭であることを認識し、主体的に子供の教育を行うとともに、地域社会・教育現場・行政と連携し、家庭の教育力の向上に努めることが期待されます。



地域社会

「地域の子供は地域で育てる」との視点に立ち、地域の教育力の向上に努めることが期待されます。



教育現場

幼児教育の重要性を認識し、幼児教育の質の向上に努めることが期待されます。



行 政

幼児教育の重要性について広く周知を図るとともに、関係機関などと連携・調整の上、様々な施策を展開し、幼児教育の一層の充実に努めることが期待されます。